



### 鯉菓子

端午の節句を祝うお菓子。  
端午の節句を祝うお菓子。  
急流を勢よく登る鯉の勇壮な姿に、  
男の子の健やかな成長を願う  
気持ちが込められている。

### 桃カステラ

桃の節句を祝うお菓子。  
桃は邪気を払い、  
不老長寿の象徴として尊ばれてきた。  
長崎では初めての桃の節句にお祝いをいただくと、  
そのお返しに桃カステラを贈る風習がある。



## 長崎から始まった。

# すべては、

今や海外でも広く親しまれている日本茶。

日本のお茶を初めて世界に紹介したのは、

幕末の長崎に生きた一人の女性であった。

それより時をさかのぼること、約二百年。

一六五〇年代に長崎を訪れた唐僧は、

日本にお茶を楽しむという喫茶文化をもたらしていた。

そして、お茶の時間に欠かせないのが甘いお菓子。

江戸時代、長崎と小倉を結んだ長崎街道は、

シュガーロード(砂糖の道)とも呼ばれている。

当時、出島などに荷揚げされた砂糖は、

この長崎街道を通じて各地へと運ばれた。

中でも街道の出発点であった長崎のまちには、

高価な砂糖がふんだんに出回り、

砂糖をたくさん使うことは最高のもてなしとされ、

次々に新しいお菓子が誕生した。

その中には、特別な時に食べる特別なもの“も多い。

色鮮やかな美しい伝統菓子が並ぶ長崎のまち。

しかし、実はそれよりも古くから砂糖が伝わり、

お菓子文化が花開いたまちがあった――。

### 有平糖

季節の花や果物などをかたどった細工菓子。  
小さいものは茶菓子として、  
大きなものは結納や結婚式の  
引出物として利用されることも。



### ぬくめ細工

装飾専用の細工菓子。

長崎くんちの庭見せの際には花菓子として用いられる。

昔はお祝いの時や芸術作品としても作られていた。

※庭見せ／表通りに面した店舗などに、本番で使用する衣装や小道具を飾る行事

